

☒ 話すこと ☐ 書くこと☒ 個に応じた教材の作成や指導の充実
☒ パフォーマンステストでの活用☒ 授業での活用
☒ 課外活動での活用☒ 家庭学習での活用実践の
ポイント

AIの即時フィードバックと教師の指導が育む英語学習

実証概要

<校数>17校(小学校:9校、中学校:8校) <人数>333名(小学校:137名、中学校:196名)
<学年>小学校:第5、6学年、中学校:第1、2、3学年 <アプリ等> World Classroom(Hello World株式会社)
<AI機能について>AIを活用した音読練習機能、プレゼン練習機能、英会話機能に加えて、オンライン国際交流機能を備えており、授業内だけでなく、家庭学習にも活用することが可能。さらに、AIによる個別評価を通じて生徒の成長を可視化し、海外の同世代とオンラインで実践的な国際交流が可能。

AIの効果的な活用方法や取り組み (AI英語モデル校事業)

●間違いを恐れず音読練習、自信をもってアウトプット(中学生)

教師による適切な文法指導後に生徒がAIを活用して間違いを恐れず音読等の練習に取り組む。AI活用後は教師が発音チェックを行うことで、教師やALT等との会話をスムーズに行うことができ、言語活動の充実に繋がった。AIの個別最適性と教師の指導性のベストミックスにより、教師の役割の重要性を示す実践となった。



●英語指導における教師の意識改革

AIによる即時フィードバックと反復練習で発音の課題を克服し、さらに生徒達自身が主体的に会話練習を重ねることで、会話力が向上した。教師が「AI利用を目的とせず、授業改善の手段とする」視点を持ったことで意識改革が推進。児童生徒と教師の双方が効果的な活用法を模索するアプローチへと変化し、質の高い指導に繋がった。



実践成果の検証結果 (AI英語モデル校事業)

①児童生徒の英語力の変化

音読最高スコアの平均点
小学生 実証前29.2→実証後52.8
中学生 実証前48.4→実証後50.1
「話すこと」に関するCEFR-J相当判定
中学生 A1.1以上78.2%→92.1%
A1.2以上17.4%→29.6%
AIを活用することで、これまで圧倒的に少なかったアウトプット力の向上が成果につながった。

②児童生徒の関心・意欲の変化

外国人などと話すときに、「相手が話す内容をもっとよく理解したい」と思う児童生徒の割合
実証前88.5%→実証後93.1%
AIで何度も正しい発音を練習できたことが自信に繋がった。練習量の増加が、主体的にコミュニケーションを図る態度を育てている。

③教師の指導の変化

AI活用は、授業改善に役立つと思うと答えた教師の割合
実証前100%→実証後100%
AIを活用したことで、生徒がこれまで以上に自信をもって会話する姿が見られ、そのことにより、さらに深い学びを充実させることができるようになった。

AI英語活用リーダーの育成や普及に関する取り組み (AI英語活用リーダー事業)

●各校の効果的な実践内容を、オンライン交流等で共有。離島、小規模校の課題を強みへ

英語専門リーダーがAI活用法や授業展開、生徒の反応等の実践例をオンライン交流やチャット等で共有し、日常的に交流を深化させた。これにより離島や小規模校の課題を改善することができ、専門外の教師のスキルアップや授業改善が実現した。県主催の英語指導力ブラッシュアップセミナーでは、リーダーが他校へAIの効果的な活用実践やパフォーマンス課題等の内容を紹介し、町外の教師の授業改善や教師間の交流が充実した。

事業全体を通じた成果や課題、今後の取り組み (AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)

●人と人とのコミュニケーションを大切にしたい、さらなる学習者主体の授業の充実

児童生徒がオンライン国際交流等で感じた「伝えたい」という意欲を起点に、デジタル教科書やAIを活用して、実践と改善を繰り返すことで、これまで以上に言語活動を充実させ、即時フィードバックと実戦の循環により深く生きた英語力と英語への自信の向上につなげていきたい。